

カナダの大学における学生支援の展開とその特徴
—CACUSS (Canadian Association of College and University Student Services)
の取り組みに注目して—

蝶 慎 一

カナダの大学における学生支援の展開とその特徴

—CACUSS (Canadian Association of College and University Student Services) の取り組みに注目して—

蝶 慎 一*

1. はじめに

(1) カナダの学生支援とCACUSS

本稿の目的は、カナダの大学における学生支援の展開とその特徴について、カナダの学生支援団体であるCACUSS (Canadian Association of College and University Student Services) の取り組みをCACUSSによる各種レポートや関連文書（以下、「レポート」とする）を検討することで実証的に明らかにすることである。

情報通信技術の進展やオンラインによる大学教育の変化によって、世界各国の大学では、学生支援に対する様々な期待が高まっている (IASAS, 2020)。これまでも米国を中心に「学習者中心の大学教育における現代的な学生支援の教育的意義や役割」(安部(小貫)ほか, 2017, 114-115頁)が注目され、我が国でも学生支援の活動を担う教職員（以下、「学生担当職」とする）の職能開発やその専門性について豊富な先行研究が蓄積されている (小貫, 2008, 2009)。

こうした中で、本稿が扱うカナダの大学の動向をめぐっても少なからず研究がなされている。例えば、溝上 (2002, 2003, 2013) は、「カナダの高等教育制度」、「カレッジ政策」及びオンタリオ州の高等教育を概説しており、犬塚 (2017) は通史的にカナダの大学をめぐるとして女性政策を整理している。個別のテーマについては、大学教員団体の活動状況を素描した吉永 (2014)、教育開発の動向を扱った羽田・土持 (2009, 59-99頁)、FDの活動を概述した佐藤 (2008) の研究が見られる。

しかしながら一方で、犬塚の指摘によれば、カナダを対象とする研究について「学生、教員、知的発展などについての先行研究」が米国等と比較して「蓄積されて」おらず、「自国を対象とする研究蓄積の薄い」(犬塚, 2017, 11頁)とされる。同様に、朴木も「カナダの高等教育に関する研究蓄積は少なく、『北米の教育』などにカテゴライズして論じられることが多い」(朴木, 2018, 508頁)とする。さらに、本稿が扱うカナダの学生支援についても学術的かつ実践的な課題であるにも関わらず (例えば, Hardy & Strange (Eds.), 2010), CACUSSに言及する数少ない先行研究においてもCACUSSの簡単な組織紹介にとどまっており (Evans & Ranero-Ramirez, 2016, p.252), 具体的な展開やその特徴を導出するという点で課題がある。

CACUSSは、1971年に設立され、カナダの学生支援においては最も主要な団体である (CACUSS, 2012)。CACUSSが発行する三つ折りの紹介パンフレット¹⁾によれば、「学生担当職」のネットワー

* 広島大学高等教育研究開発センター助教

ク構築や専門職能開発の一環としてのコンピテンシーの醸成、カナダの学生支援をテーマとする調査研究の推進にも寄与している。わが国においても、学生支援をめぐって「心身の健康問題から学習困難や就職の問題まで、さまざまな領域での支援が必要とされる」(天野, 2013, 61頁) 状況が拡大しているなかで、カナダの大学における学生支援に深く関与してきた CACUSS の展開とその特徴を実証的に考察する作業は、わが国の学生支援の今後のあり方にも示唆を与える点で意義がある。

本稿の概要を先に述べれば、カナダの大学における学生支援は、CACUSS による「レポート」で基本的枠組みが形成されてきた。加えて、CACUSS の取り組みは、米国の学生支援の専門職団体による関係文書・指針を「参照」しながら実施されてきた。そこで本稿では、カナダの大学における学生支援の展開とその特徴について、CACUSS の「レポート」を一次資料として検討していく。

(2) 検討対象とする CACUSS の「レポート」と分析の視点

これまで米国の学生支援の通史的な展開を考察する際に用いられた手法として、学生支援の専門職団体が出してきた「レポート」をレビューする方法が試みられてきた (Evans & Robert, 2001)。この方法は、「ドキュメント・レビュー」(document review) と称され、Biddix (2018) が解説するように学生支援にかかる諸団体等の「レポート」を分析対象とする研究で主要な方法に位置づいている (Biddix, 2018, pp.95-116)。そこで本稿でも、CACUSS による以下2点の「レポート」に基づいた分析を行う。1点目は、カナダの学生支援やその「学生担当職」の立場が明確にされた、“The Mission of Student Services” (以下、「ミッションレポート」とする) である²⁾。この「ミッションレポート」は、1989年に出され、後で詳論するように学生支援における基本的なあり方が体系的に記載されている。2点目は、2016年に出された、“CACUSS Student Affairs and Services Competency Model” (以下、「コンピテンシーレポート」とする) である。この「コンピテンシーレポート」は、タイトルの通り、主として「学生担当職」に必要なとされるコンピテンシーが記載されている。

続いて、分析の視点を設定する。具体的には、カナダにおける学生支援の展開とその特徴を詳論する上で、①今日に至る学生支援の基本的枠組みの描出、②学生支援で強調されてきた事柄や近年の動向、③米国の学生支援の影響、の3点である。①学生支援の基本的枠組みの描出からは、カナダの学生支援における基本的なあり方が整理できる。次に、②学生支援で強調されてきた近年の動向からは、①の視点を踏まえつつ学生支援の新たな動向を析出できる。そして、③国内外、特に米国の学生支援の影響を分析することで、カナダの学生支援における「国を超えた国際的な連携の動き」(小貫, 2008, 60頁) が見られた史実を明らかにできる。

本稿の構成は、以下の通りである。まず、「ミッションレポート」の内容から、カナダの学生支援がどのような基本的枠組みを形成してきたのかを明らかにする (2. (1))。次に、近年、強調されてきた学生支援の動向を「コンピテンシーレポート」に基づいて描き出す (2. (2))。あわせて、CACUSS の「長期戦略計画2017-2021」を分析することで、今後のカナダの学生支援が目指している方向性を明らかにする (2. (3))。続けて、この「コンピテンシーレポート」の作成過程を詳論し、米国の学生支援を中心に国内外の影響を見ることで、カナダの学生支援がいかに展開してきたのかを具体的に跡づける (3.)。おわりに、得られた知見を整理し、今後の課題を述べる (4.)。

2. カナダにおける学生支援の基本的枠組みとその動向

本節では、まず、現代のカナダにおける学生支援の基本的な枠組みを明示したと考えられる「ミッションレポート」(1989年)の内容を分析し、その前提・理念、目的と責務、活動分類の諸相を明らかにする((1))。次に、「コンピテンシーレポート」(2016年)の内容を詳論し、近年の学生支援を取り巻く環境の中で特に強調されてきた点を析出する((2))。

(1) 「ミッションレポート」(1989年)で示された前提・理念、目的と責務、構造と機能

前述の通り、CACUSSによって初めて学生支援の枠組みが示されたのが、1989年に明示された「ミッションレポート」である。これは、カナダ全体での6つの地域のCACUSS代表委員会及びCACUSSの4部門が共同して作成したもので、全8頁で構成されている(CACUSS, 1989)。「ミッションレポート」の趣旨は、表1に整理しているが、そもそもカナダの大学における学生支援とは何か、具体的にはいかなる「前提・理念」が置かれるのか、何を「目的と責務」とするのか、また、実践的な構造と機能はどのように分類し得るのか、という学生支援の枠組みを示していた。

「レポート」の冒頭で「学生支援の主要な目的」と「学生担当職の担い手」について(CACUSS, 1989, p.2)、「学生中心の教育を支援」することや「学生が教室の内外で学ぶこと」といった大学教育における学生支援の教育的役割や機能の可能性を次のように述べている。

「学生支援の主要な目的は、学生中心の教育を支援し、促進するプログラムの開発とサービスの提供を行うことである。(中略)学生担当職の担い手は、学生が教室の内外で学ぶことのできるキャンパス共同体を形成し、維持する仕事を行うパートナーとして遂行する。(中略)この文書は、高等教育機関における学生の経験を充実させるために理念的で実践的なベースとなる。」
(CACUSS, 1989, p.2, 下線強調及び訳語は筆者)

以上の記述から「ミッションレポート」が「学生の経験を充実させるために理念的で実践的なベースとなる」ことが明確に主張されている。そして、「ミッションレポート」では、「7つの前提・理念」、「4つの目的と責務」、「4つの構造と機能」に分けて体系的に記載されている(表1参照)。

表1より、カナダの大学における学生支援の「前提・理念」として、「個人の全体的成長(total growth)を目指さなければならない」という考え方、加えて、「学生担当職は教育者(educators)である」という位置づけが明確に掲げられていることは注目に値する。なぜなら、大学教育を受ける「学生の経験」の「ベース」、基礎となるのが学生支援の活動であるという認識が示されているからである。さらに、「学生担当職」を教育的な関与を行う者として定義もしているからである。近年カナダの「学生担当職」の上級管理職層は、関連学問分野の修士号が求められ、場合によっては博士号が必要になっている(IASAS, 2020, p.392)。また、高等教育の大学院プログラムが次々と設置されている³⁾。こうした大学院プログラムの隆盛の現代的な萌芽は、表1の「目的・責務」や「構造と機能」の双方に明記されている「専門性開発」への言及に見て取れるだろう。

表1 「ミッションレポート」(1989年)で示された基本的枠組み

7つの前提・理念 (premises)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 大学機関の教育上のミッションは最重要である ◆ 教育・学習コミュニティにおける生活の質は教育上のミッションに極めて重要である ◆ 個人は価値や尊厳を有し、尊敬をもって接すべきである ◆ 高等教育は<u>個人の全体的成長を目指さなければならない</u> ◆ 学習活動は状況次第であり、広範囲の人的環境的な要因によって影響される ◆ <u>学生担当職は教育者である</u> ◆ 高等教育機関の教育上の目標は、学生、事務職員、教員とともに学生支援のパートナーシップを通じて最も良く実現される
4つの目的・責務 (responsibilities)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ <u>学習環境を形成すること</u> ◇ 個人及び集団へのサービスを提供すること ◇ 運営上の卓越さを追い求めること ◇ <u>専門性開発を促進すること</u>
4つの構造と機能 (structure and functions)	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>教育的機能</u> (成長と発達への機会提供、対処スキルの指導) ● <u>支援的機能</u> (学習環境の提供、経済支援、特別支援活動) ● <u>調整機能</u> (各種スタンダードの開発、法律上・安全上支援) ● <u>対応的機能</u> (<u>専門性開発</u>、調査研究、コンサルテーション)

出典：CACUSS (1989, pp.3-7) より筆者作成

注：本表中の下線強調、太字強調、訳語は筆者による

(2) 「コンピテンシーレポート」(2016年)で強調された学生担当職の専門職能開発

このようにCACUSSによる「ミッションレポート」の作成を通じて、カナダの大学における学生支援の基本的枠組みが構築されてきた(Seifert, 2014)。しかしながら、“The CACUSS Identity Project What we have learned Our future”(CACUSS, 2012)と題したCACUSSの資料によれば、2008年頃から「ミッションレポート」で示された表1の内容について、CACUSSとして「レビュー」(review)、あるいは、「更新」(update)するための「CACUSSアイデンティティ・プロジェクト」(The CACUSS Identity Project)(以下、「アイデンティティ・プロジェクト」とする)が立ち上がることになったという。詳細なプロセスは、次節3.で検討するが、2016年の「コンピテンシーレポート」では、「学生担当職」の業務に関わる際の多種多様な「コンピテンシー」を新たに開発し、提示する主旨が述べられ、全42頁となっている。表2に示すように、まず「ミッションレポート」における「前提・理念」の趣旨が「コンピテンシーレポート」では、「価値(理念)」(values)としてほぼ継承され、3点が掲げられた。「学生担当職」は「教育者」であること、学生の「全人的な教育」「専門職」としての活動、といった同一の意味のキーワードが使われ、学生支援の「前提・理念」が継続的に「価値(理念)」として推進、定着してきた証左と捉えられる。

表2より、11項目にわたる「学生支援のコンピテンシー」を見ると、例えば、「④先住への文化的意識」、「⑥公正、多様性、インクルージョン」は、カナダの教育自体が先住民族の背景(小林ほか編, 2003, 282-291頁)や多文化社会に対する十分な配慮が必要とされている歴史的、文化的状況が理解できる。また、「⑧戦略計画、調査研究とアセスメント」については「ミッションレポート」ではほとんど意識されなかった部分である。すなわち、CACUSSとして長期的にどのような取り組みを進めていくのか、いかに実践的、実務的な調査研究を行っていくのか示唆するものであつ

た。実際に、CACUSS の具体的な取り組みとして「⑧戦略計画（略）」のコンピテンシーについては、2017年に「長期戦略計画2017-2021」が出されている（CACUSS/ASEUCC, 2017）。この計画は、全15頁で構成され、「中核となる目的」として「カナダの学生支援の専門職（学生担当職）を發展させること」が掲げられ、「目標」には「専門職能開発」、「専門職のインパクト」をはじめ5つが挙げられている。ここから「学生担当職」としての「専門職」を養成することに焦点が当てられていることは明確である。

表2 「コンピテンシーレポート」(2016年) で示されたポイント

価値 (理念)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育者としての学生担当職 ◆ 学生中心かつ全人的アプローチ ◆ 専門職的かつ倫理的な実践
学生支援の コンピテンシー (11項目において 各3段階)	<ul style="list-style-type: none"> ① コミュニケーション ② 感情的・対人的知能 ③ 異文化間の ④ 先住への文化的意識 ⑤ 高等教育の洞察力 ⑥ 公正、多様性、インクルージョン ⑦ リーダーシップ、マネジメント、管理運営 ⑧ 戦略計画、調査研究とアセスメント ⑨ 学生助言・支援と擁護 ⑩ 学生の学習と発達 ⑪ テクノロジーとデジタルの関与
	<ul style="list-style-type: none"> ◇ コア(中核) ◇ 中間 ◇ 発展

出典：CACUSS (2016, p.7) より筆者作成

注：訳語は筆者による

以上から、CACUSS より出された「ミッションレポート」を皮切りに、カナダの学生支援における基本的枠組みは構築され、適宜、「更新」等が行われながら現代に至るまで継承されてきた。また、「コンピテンシーレポート」の「価値（理念）」、あるいは、「長期戦略計画2017-2021」の中で提示された内容からも明らかであるが、実際に学生支援の活動を担う「学生担当職」の養成とその「発展」が今後のカナダの大学における学生支援の展開で重視されてきた。この背景には、CACUSS として一国の学生支援の活動に視野を限定することなく、「グローバルな感覚とコンピテンシー」(Ortiz et al., 2015, p.86) を身につけた「学生担当職」の「専門職能開発」が求められ始めた状況があると言えよう。

3. 「コンピテンシーレポート」の作成過程の検討

そこで本節では、CACUSS が、表2で概要を紹介した「コンピテンシーレポート」がどのように作成されたのか、その詳しい過程を検討する。まずは、あらためて「コンピテンシーレポート」に至るまでのCACUSS の通史的な流れを振り返りながら、その背景と経緯を整理する。続いて、「コンピテンシーレポート」を作成するにあたって適宜参照されてきた米国の学生支援の資料や関係文

書・指針がいかなるものであったのかを検討する。

表3 「コンピテンシーレポート」(2016年)に至るCACUSSの流れと米国学生支援の影響

年	カナダ			米国
	CACUSSの組織	CACUSSによる「レポート」・文書	研究者等による論文・論考	専門職団体による関係文書・指針
1937				・「学生支援の展望の要点」(SPPV: The Student Personnel Point of View) 【ACE】
1946	UAS (University Advisory Services)			↓
1949				・「学生支援の展望の要点」SPPV(The Student Personnel Point of View) 改訂版 【ACE】
1952	UCPA (University Counseling and Placement Association)			↓
1953	CAUSPS (Canadian Association of University Student Personnel Services)			
1961	I. CAUSPS II			
1971	CACUSS (Canadian Association of College and University Student Services)			
1987		基本的枠組み		・「学生支援の展望」(A Perspective on Student Affairs) 【NASPA】
1989		・「 ミッションレポート 」(The Mission of Student Services)		↓
2003			・Robinsonの論考	
2007				・「専門職コンピテンシー」Professional Competencies 【ACPA】
2010			・Hardy Cox, D., & Strange, C.らの著書	・「ACPA・NASPA共同学生担当職専門コンピテンシー」(ACPA and NASPA Professional Competency Areas for Student Affairs Practitioners) 【ACPA/NASPA】(7月)
2011		・「 学習の指導者 」(Leaders in Learning) [the CACUSS Identity Project]	・RobinsonのPh.D.論文	↓
2015				・「ACPA・NASPA共同学生担当職専門コンピテンシー」(Professional Competency Areas for Student Affairs Educators) 【ACPA/NASPA】(8月)
				・「国際学寮担当職スタンダード及び倫理原則」ACUHO-I Standards & Ethical Principles(改訂版) 【ACUHO-I】(4月)
2016		・「 学生担当職における専門職開発: 指針枠組みに向けて 」(Professional Development in Student Affairs: Towards a Guiding Framework) [the CACUSS Identity Project]		
		・「 コンピテンシーレポート 」(CACUSS Student Affairs and Services Competency Model)		
2017		・「 長期戦略計画 」(Strategic Long-Range Plan 2017-2021)		

出典：CACUSS Learning Framework and Professional Development Plan Project Team (2016), 小貫 (2009, 24-27頁, 36-37頁), D. Fernandez et al. (2016, pp.35-39) より筆者作成
 注：本表中に記載の各文書、論考、論文、指針等の詳細な出典情報は、本稿の【参考文献】を参照されたい。各々の「レポート」及び文書・指針の訳語は、一部、小貫 (2009, 24-27頁, 36-37頁) を参考にした。

CACUSSは、第二次世界大戦後のUAS(1946年)から、UCPA(1952年)、CAUSPS(1953年、1961年)等を受けて、1971年に設立をみた(表3参照)。その後、CACUSS内の各種委員会や組織体制の整備が実施され、カナダの学生支援団体としてその基本的枠組みを明示したのが前節2.で検討してきた「ミッションレポート」である。この「ミッションレポート」を丁寧にみると、最後

の頁に参考文献が一覧になって記載されている。その中に、カナダ大学協会 (the Association of Universities and Colleges of Canada) 等の資料に加えて、米国の学生支援 (「学生担当職」) の二大専門職団体の一つである NASPA (National Association of Student Personnel Administrators) が1987年に出した「学生支援の展望」 (“A Perspective on Student Affairs”) の文書が「参照」されていた。管見の限り、CACUSS が公式に出した「レポート」のうち、初めて米国の学生支援の「文書・指針」が「参照」された。そして繰り返しになるが、その後は「学生担当職」の養成やその「専門職能開発」について注目が集まっていた。こうした中で、2007年に上記の NASPA と対をなしてきた米国学生支援の専門職団体である ACPA (American College Personnel Association) が出した「専門職コンピテンシー」 (“Professional Competencies”) の文書が「参照」された⁴⁾。そして、2010年には ACPA と NASPA が共同で作成した「ACPA・NASPA 共同学生担当職専門コンピテンシー」 (ACPA and NASPA Professional Competency Areas for Student Affairs Practitioners) が出された。これは、「学生担当職」のコンピテンシーを新たに開発しようと模索していた当時の CACUSS にとっては大いに参考となる材料となった。また、「ACPA・NASPA 共同学生担当職専門コンピテンシー」の改訂版でもある2015年に出された文書も同様に「コンピテンシーレポート」の作成に直接的に影響を与えていた。この影響が窺える例を示せば、「コンピテンシーレポート」における多数の「学生支援のコンピテンシー」には、次のような引用、「参照」する注釈が付され、書き込まれている。

「ACPA・NASPA 共同学生担当職専門コンピテンシーにおける (略) から出典」 (例えば, ACPA, & NASPA., 2010, p.21, 訳語は筆者)

こうした米国の学生支援に関するコンピテンシーの文書を「参照」することは、「コンピテンシーレポート」の冒頭部分の「著者の文書と紹介」に次のような記述がなされていることから、意識的に行われていたことが確認できる。ただ、「そのまま」の形で米国学生支援のコンピテンシーを「採用する」ことを目指しておらず、先に CACUSS の意図を先に述べれば、むしろ「カナダの文脈に対する独自性」にも十分配慮する姿勢が示されていることは注目したい。

「我々は、この仕事 (注: 学生支援コンピテンシーを作ることは、姉妹組織⁵⁾ (ACPA/NASPA, ACUHO-1) によって作られた現存のコンピテンシーを基礎として行われると思う。そして、カナダの学生担当職に重要な積み重ねを加えるのである」 (Fernandez et al., 2016, p.3, 下線強調及び訳語は筆者)

「カナダの学生担当職は、そのまま ACPA/NASPA のフレームワークを採用することもできるが、(略) カナダの文脈に対する独自性があると思う」 (Fernandez et al., 2016, p.3, 下線強調及び訳語は筆者)

そして、「コンピテンシーレポート」の作成に影響を与えたのは、米国の学生支援の関係文書・

指針ばかりではない。表3より、「研究者等による論文・論考」が挙げられることがもう一つ特筆できる点である。具体的には、「アイデンティティ・プロジェクト」を通じて出された、2011年の「学習の指導者」、2016年の「学生担当職における専門職能開発：指針枠組みに向けて」の両方で指摘できるが、Robinson という現職のトロント大学学生部長⁹⁾ が執筆したカナダの学生支援における「価値（理念）」をテーマとした博士論文（Robinson, 2011）が、少なくともCACUSS内で参考にされ、各種の「レポート」の参考文献にも加えられていた（Fernandez et al., 2016, p.42）。これは、カナダでも学生支援に関する調査研究の必要性が顕在化し出した2010年前後の時期（Seifert, 2014, p.296）とも重なっており、CACUSSでも研究成果（例えば、Hardy & Strange (Eds.), 2010）が刊行されるようになっていた。言い換えれば、学生支援の実践を含めた学術研究の成果が、CACUSSを中核に集められ、さらにその実践的な取り組みに結実し得る流れが確立されていたのである。

4. おわりに—カナダの大学における学生支援の特徴—

本稿では、カナダの大学における学生支援の展開とその特徴について、CACUSSによる主要なレポートや関連する報告書を検討することで実証的に明らかにしてきた。以下では、あらためて本稿による検討で得られた知見を整理、考察し、今後の課題を述べる。

まず、検討の結果を整理すれば、CACUSSの「ミッションレポート」によってカナダの学生支援の基本的枠組み（「前提・理念」、「目的と責務」、「構造と機能」）が明示され、現代に至るまで継承している（2. (1)）。次に、この基本的な枠組みを「ベース」として、特に、近年は「学生担当職」の「専門職能開発」に焦点が当てられ、「学生支援のコンピテンシー」の新たな開発、実践という方向性が戦略的に打ち出された（2. (2)）。そして、「コンピテンシーレポート」の作成過程を検討したことで、カナダの学生支援の展開を跡づけることができた。ここから米国の学生支援の関係文書・指針が影響を与えてきたこと、また、カナダ国内においても学生支援に関する研究者の知見が活用されてきた経緯が明らかになった（3.）。これらの知見は何を意味するか。以下2点考察する。

第1に、学生支援の活動における国際的な「連携」の重要性である。CACUSSの「コンピテンシーレポート」の作成に象徴されるように、現代の学生支援の取り組みは、今後は国際的な影響を受けながら形成され、推進されていくと言える。第2に、こうした国際的な学生支援の展開を評価する上で求められるのが「対象化」（吉田, 2013, 294頁）の観点である。日米の歴史から今日の教養教育のあり方を検討した吉田によれば、日米において教養教育が「どのように異なるのかについて、目的から組織まで多面的に分析する」（吉田, 2013, 294頁）ことの意義を指摘している。こうした「対象化」の作業は、米国の学生支援の動向を「参照」してきたカナダの大学の学生支援（表3参照）の特徴を導出する上でもきわめて重要な観点となるだろう。今後もカナダの個別大学を対象に訪問調査を実施するなどして継続的な検討を進めていきたい。

【付記】

本研究は、平成30年度～令和2年度科学研究費補助金（若手研究）JP18K13204の助成を受けた成果の一部である。

【注】

- 1) CACUSS の事務局から Hardy Cox, D., & Strange, C. (Eds.) (2010) を入手した際に同封されていたものである。詳しくは、CACUSS/ASEUCC (n.d.) を参照されたい。
- 2) 「ミッションレポート」は、2020年5月8日、CACUSS の事務局 (the CACUSS Secretariat) より入手した。
- 3) CACUSS (n.d.) を参照されたい。
- 4) CACUSS Learning Framework and Professional Development Plan Project Team (Patty Hambler, Tracy Mason-Innes, Corinna Fitzgerald, and Darran Fernandez) (2016, p.10) を参照。なお、ACPA の「専門職コンピテンシー」は、「基本」、「中間」、「発展」の3段階になっており (ACPA, 2007, p.6; 小貫, 2010, 89頁)、「コンピテンシーレポート」の「学生支援コンピテンシー」の「各3段階」の「コア (中核)」、「中間」、「発展」と類似している (表2参照)。資料的制約より詳細は不明である。
- 5) 原文では、“sister organization”と記述されている。
- 6) 詳しくは、Nona Robinson (n.d.) を参照されたい。

【参考文献】

- 安部 (小貫) 有紀子・橋場論・望月由起 (2017) 「学生支援における学習成果を基盤としたアセスメントの実態と課題」『高等教育研究』第20集, 113-133頁。
- 天野郁夫 (2013) 『大学改革を問い直す』慶應義塾大学出版会。
- 犬塚典子 (2017) 『カナダの女性政策と大学』東信堂。
- 小貫有紀子 (2008) 「米国学生支援における学生担当職の専門性と専門職団体」『大学と学生』第49号 (通巻523号), 54-61頁。
- 小貫有紀子 (2009) 「米国高等教育における学生支援の変革—学習志向のインパクト—」広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻博士論文。
- 小貫有紀子 (2010) 「米国高等教育における学生担当職員の専門職能開発 (PD) の体系化」『高等教育研究』第13集, 81-100頁。
- 小林順子・関口礼子・浪田克之介・小川洋・溝上智恵子編 (2003) 『21世紀にはばたくカナダの教育 (カナダの教育2)』東信堂。
- 佐藤浩章 (2008) 「カナダ・マギル大学におけるFDのフレームワークと活動内容」『大学評価研究』

- 第7号, 63-72頁。
- 羽田貴史・土持法一 (2009) 「第3章 カナダの Educational Development とネットワーク」東北大学高等教育開発推進センター編『ファカルティ・ディベロップメントを超えて』東北大学出版会, 59-99頁。
- 朴木佳緒留 (2018) 「<書評>犬塚典子著『カナダの女性政策と大学』」『教育学研究』第85巻第4号, 508-510頁。
- 溝上智恵子 (2002) 「第6章 カナダの高等教育とオンタリオ州のカレッジ」館昭編『短大からコミュニティ・カレッジへ—飛躍する世界の短期高等教育と日本の課題』東信堂, 129-153頁。
- 溝上智恵子 (2003) 「第2節 カレッジ政策」小林順子・関口礼子・浪田克之介・小川洋・溝上智恵子編 (2003) 『21世紀にはばたくカナダの教育 (カナダの教育2)』東信堂, 157-162頁。
- 溝上智恵子 (2013) 「カナダの高等教育制度」『カナダ教育研究』No.11, 55-69頁。
- 吉田文 (2013) 『大学と教養教育—戦後日本における模索』東信堂。
- 吉永契一郎 (2014) 「カナダにおける教員団体の現状と課題」(抄録)『大学論集』第45集, 173頁。
- ACPA. (2007). Professional Competencies A Report of The Steering Committee on Professional Competencies July 2007 Retrieved August 11, 2020, from https://www.myacpa.org/sites/default/files/acpa_competencies_resources.pdf
- ACPA, & NASPA. (2010). *ACPA and NASPA Professional Competency Areas for Student Affairs Practitioners July 26, 2010*. Retrieved August 13, 2020, <http://higherlive.com/wp-content/uploads/2015/05/Professional-Competency.pdf>
- ACPA, & NASPA. (2015). *ACPA/NASPA professional competency areas for student affairs practitioners*. Washington, DC: Authors. Retrieved May 4, 2020, from https://www.naspa.org/images/uploads/main/ACPA_NASPA_Professional_Competencies_FINAL.pdf
- ACUHO-I. (2015). *ACUHO-I STANDARDS & ETHICAL PRINCIPLES for College & University Housing Professionals Prepared by the ACUHO-I Professional Standards Committee April 2015*, Retrieved August 12, 2020, from <https://www.acuho-i.org/Portals/0/doc/res/acuhoi-standards-ethical-principles-2015-final.pdf>
- Anna M. Ortiz., & Ilinca Filimon., & Monica Cole-Jacson. (2015). *NEW DIRECTIONS FOR STUDENT SERVICES, 151*, 79-88.
- CACUSS (1989). *THE MISSION OF STUDENT SERVICES June 25, 1989*, Number 1, Retrieved May 8 2020, from the CACUSS Secretariat.
- CACUSS (2012). The CACUSS Identity Project What we have learned Our future July 17, 2012, Retrieved August 11, 2020, from <https://www.slideshare.net/rossmcmillan/the-cacuss-identity-project>
- CACUSS Learning Framework and Professional Development Plan Project Team (Patty Hamblar, Tracy Mason-Innes, Corinna Fitzgerald, and Darran Fernandez). (2016). Development a Competency Framework & Professional Development Plan for Canadian Student Affairs Professionals. *Communiqué*, 17(1), 10-11. Retrieved April 30, 2020, https://issuu.com/cacuss/docs/cacuss-q1-final_amended4_digital_co/10
- CACUSS/ASEUCC (2017). *Strategic Long-Range Plan 2017-2021* Retrieved July 26, 2020, from <http://www>.

- cacuss.ca/images/2019/CACUSS Strategic Long-Range Plan 2017-2021.pdf
- CACUSS/ASEUCC (n.d.). *Pamphlet of CACUSS/ASEUCC (the Three-Fold)*.
- CACUSS (n.d.). Graduate/Certificate Programs Graduate/Certificate Programs for Student Affairs and related Programs in Canada Retrieved July 31, 2020, from <https://www.cacuss.ca/fr/resources/graduate-certificate-programs.html>
- Darran Fernandez, Corinna Fitzgerald, Patty Hambler and Tracy Mason-Innes. (2016). *CACUSS Student Affairs and Services Competency Model*. Retrieved May 4, 2020, from https://services.viu.ca/sites/default/files/cacuss_student_affairs_and_services_competency_model_final.pdf
- Evans, Nancy J., & Reason, Robert D. (2001). Guiding Principles: A Review and Analysis of Student Affairs Philosophical Statements. *Journal of College Student Development*, 42(4), 359-377.
- Fisher, D. (2011). *Learners in Learning: Student Affairs in Canada in the 21st Century & Implications for the Canadian Association of College and University Student Services*. Retrieved April 30, 2020, <http://blogs.ubc.ca/cacussip/files/2011/06/Leaders-In-Learning1.pdf>
- Hardy Cox, D., & Strange, C. (Eds.) (2010). *Achieving Student Success*. Quebec City: McGill-Queen's University Press.
- IASAS. (2020). *Student Affairs and Services in Higher Education: Global Foundations, Issues, and Best Practices*, Third Edition, the International Association of Student Affairs and Services (IASAS) in cooperation with the Deutsches Studentenwerk (DSW) Publishers. Retrieved April , 2020, <http://iasas.global/student-affairs-services-in-higher-education-global-foundations-issues-and-best-practices/>
- J. Patrick Biddix. (2018). *Research Methods and Applications for Student Affairs*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Nancy J. Evans., & Jessica J. Ranero-Ramirez. (2016). CHAPTER 12 The Role of Professional Associations. In John H. Schuh, Susan R. Jones & Vasti Torres (Eds.), *THE HANDBOOK OF STUDENT AFFAIRS ADMINISTRATION Fourth Edition* (pp.245-263). San Francisco: Jossey-Bass.
- Nona Robinson. (n.d.). Nona Robinson Retrieved August 28, 2020, from <https://www.oise.utoronto.ca/hec/UserFiles/File/Doctoral%20Students/N%20Robinson.pdf>
- Roxanne DuVivier., & Catherine Lee., & Adrienne Johnson. (2017). Applying the ACPA/NASPA Competencies in the Development of a Student Affairs Graduate Professional Preparation Course in the UK. *Journal of the Australian and New Zealand Studies Services Association*, 50, 15-37.
- Tricia A. Seifert. (2014) Student Affairs and Services Staff in English-Speaking Canadian Postsecondary Institutions and the Role of CACUSS in Professional Education. *Journal of College Student Development*, 55(3) , 15-37.
- Vanda Wenona Harvey (Nona) Robinson (2011). Values of Canadian Student Affairs Practitioners. A thesis submitted in conformity with the requirements for the degree of Doctor of Philosophy Department of Theory and Policy Studies in Education Ontario Institution for Studies in Education at the University of Toronto Retrieved August 14, 2020, from https://tspace.library.utoronto.ca/bitstream/1807/29934/1/Robinson_Vanda_WH_201106_phD_thesis.pdf

A Study on the Development and Characteristics of Student Affairs Services in the Canadian Context: Focusing on the Activities of CACUSS

Shinichi CHO *

This paper examines the development and characteristics of student affairs services in Canadian universities. Compared to our understanding of student affairs services in the United States context, no previous research has focused specifically on student affairs services in Canada, and the professional organization of these services and related activities have never undergone basic analysis. Thus, this paper is based on newly identified primary evidence acquired by the author from the CACUSS Office Secretariat in Canada, the analysis of which leads to the following conclusions. First, after I provide an overview of the history of the organization, I analyze two CACUSS primary documents: “The Mission of Student Services” (1989) and “CACUSS Student Affairs and Services Competency Model English” (2016). Second, I consider the creation process of “CACUSS Student Affairs and Services Competency Model English” (2016). Notably, the CACUSS refer to student affairs services documents published by American professional organizations (e.g. ACPA, NASPA, and ACUHO-I). In light of these results, the basic viewpoints of student affairs services in the Canadian context are shown.

* Assistant professor, Research Institute for Higher Education (R.I.H.E), Hiroshima University